

介護に関する簡易報告

生活意識調査から

回答者の属性

多木 秀雄

Written by Hideo Taki

当研究所では、2008年2月、「住まいとライフスタイルに関する生活意識調査」を行った。本稿では、その中の介護に関する調査について報告する。

■調査概要

調査地域は全国とし、21歳～72歳の男女1138人に質問表を配布し、964人から回答を得ている。調査期間は、平成20年1月18日から同年2月12日であった。

自分が介護されたい場所

つと介護サービスを利用したい条件」の設問に対して、「費用が安ければ、もしくは家計に余裕が出てくれば」が五二・一%、「自治体などが経済援助してくれれば」が四二・六%と高く、もっと利用したいがサービス利用の費用が障害となつて我慢せざるを得ない状況であることがうかがえる。また、「満足できるサービス内容であれば」もっと利用したいと考えておられる方も四二・六%と高い。費用やサービス内容の他、「家族のプライバシーや家のセキュリティが保たれるなら」との回答が一八・一%あり、利用したいが他人が家に出入りすることに対して不安を感じる方が一定数おられることもわかった(図1)。

介護サービスの利用意向

介護サービスに関する回答

現在、近親者を介護中の一一名の方について、要介護者への介護サービスの利用意向を尋ねた結果、現在利用していない方も含めて九四名(八四・七%)が、今後でも利用したいか、利用を検討したいとの意向である。また、この方々への「も

介護経験の有無を問わず、回答者九六四名の方に対する、自分が介護される立場になった場合の「介護を受ける場所」に対する設問では、介護度の程度による違いが見られる。「要介護2」以下の、比較的軽度な場合には、施設や病院でなく自宅での介護を希望する割合が七〇%を超え、逆に「要介護3」以上では、これが逆転して、施設や病院での回答が八〇%を超える。その際、三〇代以上では、男性の方が同年代の女性と比較して五・一%～二・六%、自宅での介護を希望する割合が高い。

回答者数九六四名中、「近親者を介護した経験」のある方は二七一名(二八・一%)。年齢別では、男性、女性ともに二〇代から四〇代までは八〇%以上が経験なしである。経験ありの割合は、二〇代を除いて男性よりも女性の方が高い。「介護した近親者」は、介護経験のある二七一名中、五六・一%が実父・実母である。また、三〇代以上の女性の場合、実父・実母と同じくらいの割合で義父・義母の介護経験も有している。義父・義母の介護経験は、女性に比べて男性ははるかに少ない。心身の機能や状態に応じて、その人が必要な介護量によって「要支援」「要介護1～5」の六段階の認定がなされる。今回の回答者が経験された介護対象者は、「要支援」という、六段階の中では、最も軽度な段階の方が二六・六%と最も多い他、「要介護」の度合いでは「1」から「5」まで、一七・三%～二〇・三%と比較的均等である。要介護者が施設・病院に入居・入院された状態での介護が四一・三%である一方、「各種介護サービスも利用」を含むと、約六〇%が要介護者と同居での介護である。

介護をしてもらいたい人

次に、将来自分が介護される立場になった場合、「誰に介護されたいか」に対する設問である。これも介護度の程度による違いがある。介護度が「要介護2」以下の、比較的軽度な場合、配偶者が六一・〇%と最も多く、専門の介護スタッフと実の娘とが三〇%前後で次いでいる。興味深いのは、男性が六三・六%、八一・二%が配偶者に介護されたいとするのに対し、女性は配偶者を望む割合が相対的に低く、四二・七%、五六・六%となっている。女性はその分、実子、とくに娘に介護されたいとする割合が大きくなっている。年代別では、六〇代以上で男性は八一・二%が配偶者としているのに対し、女性は四二・七%と、とくに大きな差が見られる。女性は、自分よりも高齢である可能性が高い配偶者ではなく、娘、息子、あるいはその配偶者を五〇%以上があげている。

一方、「要介護3」以上となると、専門の介護スタッフが七三・二%で圧倒的に高く、次いで配偶者（二八・六%）となっている。ただ、男性は依然として二七・三%、四六・六%が配偶者を望み、その割合は高齢ほど高くなっている。専門のスタッフへの依存は、介護度が重度な場合の介護の負担の大きさを認識した結果かと思われる（図2）。

図1 要介護者に対する、介護サービスの利用（施設・病院などへの入居・入院は含まない）

※現在近親者を介護中の方のみの回答。選択肢中○は1つのみ

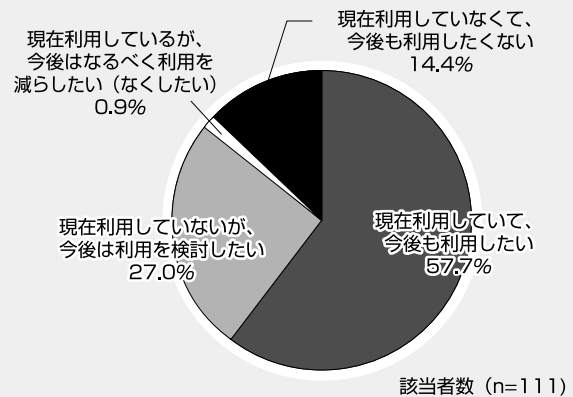
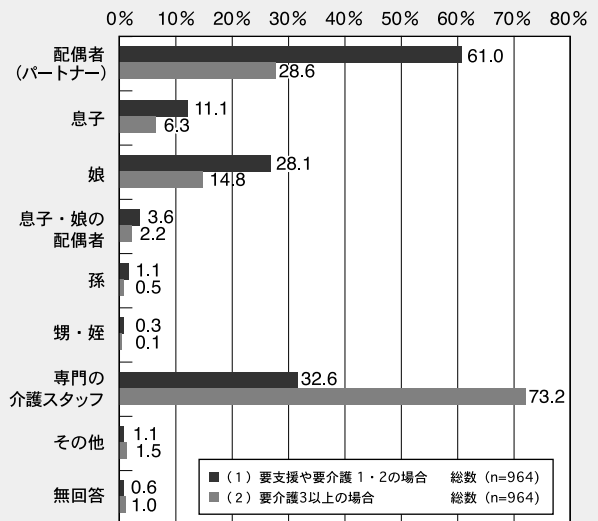


図2 自分が介護される立場になった場合、誰に介護されたいか

※選択肢中○はいくつでも可



自分が介護する立場の場合、介護をしたい場所

自分が介護をする相手が「実の両親」、「義理の両親」、「配偶者」の場合について、「介護をしたい場所」を回答者九六四名の方に質問した。実の両親の場合には、義理の両親の場合に比べ、「要介護者と同居して」、あるいは「要介護者の家に通って」介護したいとの回答割合が相対的に高く、前者が五二・〇%であるのに対し、後者は四四・三%である。また、配偶者の場合には、「要介護者と同居して介護」の割合が六〇・九%と、要介護者が自立できていた時と変化することなく夫婦が一緒に暮らして介護をすること希望する方が多い。とくに回答者の年代が低いほどその傾向が強い。

今回実施した意識調査の結果から、自らが介護する場合、介護される場合について、男性と女性との間の違いも含め、近親者に対する思いと、二四時間三六五日、昼夜を問わず、多様な支援をし続けることの負担の大きさを認識した、病院や施設への入院・入居や介護サービスに依存せざるを得ないとの気持ちとが、ともに見られる。現在、施設及び介護サービスの体制は整備されつつあるが、なお入所には長期間の待ち時間が必要であり、私たちはこの問題に真剣に取り組む、システム整備を図らねばならない。

（大阪ガス（株）エネルギー・文化研究所 所長）